

健康・安全

「健康と安全」に配慮することは東京エレクトロングループの社会的責任の一つであり、企業活動を行うための重要な課題です。企業活動にかかわるすべての人々の「健康と安全」に関する取り組みを推進しています。

健康・安全についての考え方

当社グループは、企業の社会的責任の一つとして、社員やお客様をはじめ、企業活動にかかわるすべての人が安全に働き、安全に製品を使用し、そして健康であることが重要であると考えます。

当社グループでは2006年10月から2008年3月までの間に、日本国内12事業所で管理者向けに安全研修を計55回開催し、818人が参加しました。

研修は、経営者による安全に対するメッセージビデオの視聴、人間の特性の観点から事故を捉えるヒューマンファクターの講義、実際に発生した事故事例の分析実習や安全配慮義務に関するビデオ研修、そして最後に各自が行動計画を発表するという内容でした。研修後のアンケートでは、「今まで受けた研修の中で一番良かった」「学んだことを実践し、今後の対策に活かしていきたい」「身近な事例が使用されていたので、非常に理解しやすかった」「グループメンバーの安全を自分が守るという認識を強く持つことができました」という意見があり受講者から好評を得ています。



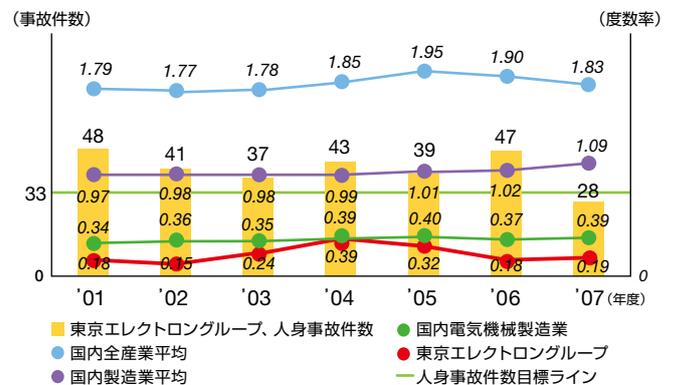
管理者安全研修



人身災害事故の管理

2007年度の当社グループ全体での応急処置を除く人身事故・災害の件数は、売上や製品出荷が増加している中で、前期と比較して40%以上大幅に削減し、目標である2000年比33%を達成しました。これは、従来国内のお客様先に行っていた安全管理体制をグローバルに展開し、アジア地区において新規お客様の工場設置時に重点的に推進したことで、装置立ち上げ作業・メンテナンス作業時の人身事故が大幅に減少したことによるものです。また、当社グループオリジナルの安全ツールの開発や、教育の充実、製品設計上での高所作業や重量物作業の軽減を進めたことも理由としてあげられます。今後もさらなる事故削減に向けて活動を進めていく方針です。2007年度より労働災害度率の計算を、国内グループ会社における休業1日以上の災害発生件数に変更しました。

労働災害度率と人身災害事故件数の推移グラフ



※事故件数は2000年度を100とする

※労働災害度率：100万延労働時間あたりの労働災害件数

TOPICS

重量物取り扱い作業時の事故削減に向けた重量計の開発

重量物を取り扱う際、対象となる荷の重量を事前に正確に把握することが重要です。視覚や触れた際の感触のみでは、実際の重量の把握は困難であり、荷が想像以上に重かったということが多々あります。当社グループでは、過去に荷の重量を事前に把握せずに作業を続行した結果、腰痛や挟み込みなどの怪我を引き起こしてしまったという事例が少なくありません。そこで当社グループは、小さな部品や製品を取り扱う際に用いるツールに取り付ける特殊重量計により重量を正確に把握し、重量物の取り扱いにおける事故低減に取り組んでいます。



重量計

装置に関する安全について

装置の設計・開発段階における安全への配慮は社内だけでなくお客様からの要望もあり、ますます重要視されています。この取り組みの一環として2007年度に装置安全教育をWEB上で行いました。この教育では、装置安全設計のためのリスクアセスメントについての内容や、事故事例を通して装置設計に必要な安全に関する知識を



WEBを用いた設置安全教育

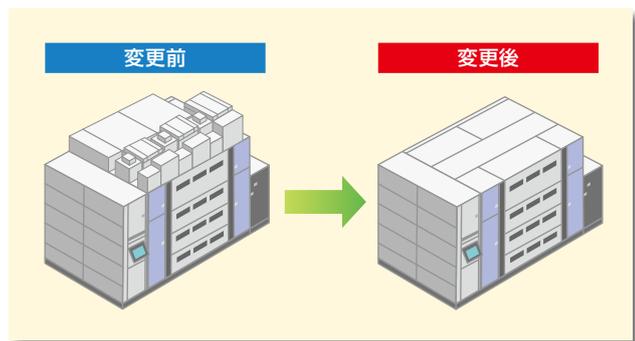
必要な安全に関する知識を修得します。

また、装置の生産性向上と設置面積の縮小を追求することに伴い、装置自体の高さが増す傾向にあります。その結果、装置各部の調整や組み立て時に高所での作業が増加し、高所からの落下の危険性も増加しています。

当社グループでは、「本質安全設計」事故削減に向けての装置安全活動の一環として、高所作業時の事故削減に取り組んでいます。この取り組みに基づき、最新の塗布現象装置は、高所作業、特に重量物を扱う高所作業の機会を削減するというコンセプトを盛り込んで開発されました。重量がある部品を装置上部から装置内部に取り付けることにより、高所での重量物取り扱い作業の機会を削減しました。さらに、装置各部の調整回数の低減および定期メンテナンス期間の見直しを進めることにより、高所作業の機会を削減しました。

また、実際に装置組み立て時の脚立および作業台を使用する作業は、従来の装置では90回/1台に対して、最新の装置では50回/1台と作業数を削減しました。

装置上部ユニットの削減



体感教育の推進

安全に関する感覚は、座学による教育など聞きするだけではなかなか理解しにくいものです。そこで、当社グループの佐賀事業所では、危険度の高い現場作業を実際に体感し、危険への意識を高め、事故防止や労働災害の被害の最小化に役立つ取り組みを行っています。



ぶら下がり体感

高所作業体験では、胴ベルト型やハーネス型の安全帯を使用し実際にぶら下がり、安全帯の使い方を体感しています。

被液体感



加圧された薬液の危険を感じるコーナーでは、保護衣とゴーグルを着用して、配管中に加圧された水を擬似暴露することで、保護衣やゴーグルの効果を体験してもらいます。

感電体感では、電圧が印加された電極を利用します。電極同士をあてると火花が散りますが、受講者は素手で触り、感電を体感します。12Vバッテリーを3つ直列につないだ電源ですので、触っても人体には影響しない程度です。



感電体感での電極

重量物体感



重量物体感コーナーでは、実際にクリーンルームで使用されているフロアタイルを空き缶の上に落下させ、空き缶がつぶれることを見ることにより、受講者にその威力を感じてもらいます。